

第1回浅川町公共施設最適化委員会 議事録

日 時 令和7年7月17日（木）午後1時30分～午後3時15分

場 所 浅川町中央公民館 視聴覚室

No.	所 属	役 職	氏 名	
1	総務省地方公営企業経営アドバイザー 青森県むつ市参与		遠藤 誠作	
2	(一財) ふくしま建築住宅センター	理事（兼）本部事業担当部長	川音 真悦	
3	浅川町議会	総務経済常任委員会委員長	富永 勉	
4	浅川町議会	文教厚生常任委員会委員長	兼子 長一	
5	浅川町民生委員・児童委員	会長	深谷 公生	
6	浅川町監査委員	代表	岡部 まゆみ	欠席
7	浅川町商工会	会長	小宅 善一	欠席
8	浅川町消防団	団長	岡田 辰夫	
9	浅川町連合PTA	会長	関根 裕一	
10	浅川町教育委員会	職務代理者	岡田 淳一	欠席
11	JA夢みなみ浅川支店	支店長	近藤 強	
12	浅川町長寿会連合会	会長	内田 勝雄	
13	浅川町婦人会	会長	我妻 勝子	
14	浅川町区長会	会長	緑川 孝雄	欠席
15	女性団体連絡協議会	会長	本多 民枝	
16	吉田富三記念館	事務員	関根 喜代子	

17	浅川町	町長	江田 文男
18	浅川町	副町長	加藤 守
19	浅川町	教育長	真田 秀男
20	浅川町	総務課 課長	生田目 源寿
21	浅川町	総務課 課長補佐	小野 修司
22	浅川町	総務課 主査	白川 祐太

議 事 錄

町長：皆さん、こんにちは。皆さんにおかれましては、何かとお忙しい中、浅川町公共施設最適化委員会にご出席をいただき、本当にありがとうございます。

さて、浅川町では 66 年前の昭和 34 年に立てられた役場庁舎をはじめ、様々な公共施設の老朽化が進んでおります。

これらの施設を更新または改修していかなければならぬのですが、そのすべてに対応していくことは、財政状況や人口規模からの面からいっても適切ではありません。

町といたしましては、これまで浅川町公共施設総合管理計画を平成 28 年 9 月に策定し、各公共施設の現状を把握するとともに今後の基本方針を定めておりましたが、今般計画をさらに進め、役場庁舎を中心にどの施設をどのように残すのか、どの順番で進めていくのか、これらの課題について、今年 1 年間をかけて結論を出したいと考えております。

また、これらの検討に当たっては、町民の皆様との対話が大変重要であります。本委員会には、各分野の代表者様や学識経験者の皆さんをお招きし、町としての考えを率直にお伝えしてまいりますので、町公共施設のあるべき姿に関して幅広い御意見を伺うことを考えております。

未来の浅川町に相応しい形を住民の皆様とともに考えてまいります。どうか忌憚ない活発な意見を賜りますよう心からお願い申し上げまして、簡単ではございますが冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞ皆さんよろしくお願ひいたします。

総務課長：はい、ありがとうございました。

それでは、本日の委員会に出席されている方の自己紹介をお願いします。まず、執行側を紹介申し上げます。江田町長はご挨拶いたしましたので、次からお願いします。

副町長：副町長の加藤守です。町長の挨拶にもありましたとおり、皆様の意見をお聞かせください。

教育長：皆さんこんにちは。教育長真田秀男でございます。よろしくお願ひいたします。

総務課長：続きまして事務局をご紹介いたします。

小野：総務課、課長補佐、小野修司です。よろしくお願ひいたします。

白川：総務課、主査、白川祐太と申します。本日はよろしくお願ひいたします。

総務課長：以上 2 名が公共施設最適化の専属の職員となっております。よろしくお願ひいたします。

それでは名簿 3 番、町議会の富永総務経済常任委員長から、自己紹介をお願いいたします。

富永委員：まずは皆さん、こんにちは。浅川町議会より総務経済常任委員長として参加させていただきます富永でございます。町にとってもこの事業は大変重要でありますので、議員

の立場で、しっかりと務めたいと思います。よろしくお願ひします。

兼子委員：浅川町議会の文教厚生常任委員会の委員長、兼子長一でございます。浅川町の各公共施設は、老朽化の問題があります。こういった点も皆様と一緒にいろいろ研究を努めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

深谷委員：民生委員の深谷と申します。よろしくお願ひします。

岡田委員：浅川町消防団長の岡田辰夫と申します。よろしくお願ひします。

関根委員：浅川町連合 PTA 会長の関根と申します。よろしくお願ひします。

近藤委員：JA 夢みなみ浅川支店長の近藤と申します。よろしくお願ひします。

内田委員：浅川町長寿会連合会の会長をやっております内田勝雄です。よろしくお願ひします。

我妻委員：浅川町婦人会会长の我妻勝子です。よろしくお願ひいたします。

本多委員：女性団体連絡協議会の会長をしております本多民枝です。どうぞよろしくお願ひいたします。

関根委員：吉田富三記念館の関根です。よろしくお願ひします。

総務課長：ありがとうございます。それでは名簿の一番、有識者ということで、自己紹介をいただきたいと思います。

遠藤委員：遠藤と申します。以前は三春町役場で働きその後、総務省のアドバイザーとなっています。平成 12 年から 25 年くらいアドバイザーをやっていまして、200 以上の市町村アドバイザーをしました。

現在、青森県むつ市の参与の辞令を受けていまして、毎月 1 回通って課題に取り組んでいます。

公共施設の関係機能は、どこを見てもどうしたらしいのか問題がある。実はこの月曜日と火曜日に総務省に行き、次の日は静岡県の南。そこで何が議論になったのかというと下水道です。この施設は全部税金で造ったが、施設の維持費については一般会計から税金を投入しています。その施設が持ちこたえることができなくなりつつある。20 年くらいその研究をしています。そういう公共施設が多くある。

皆さんには、いろいろお聞きしたことで参考になることがあれば、皆さんにお伝えしたいと思います。よろしくお願ひします。

川音委員：福島県職になりまして建築一筋で令和 2 年に退職になりました。その間は宮崎行

政とか建築指導とかいろんな経験をさせていただきました。今回の委員会もその経験が活かせればと思います。皆さんよろしくお願ひいたします。

総務課長：ありがとうございました。改めてですが、学識経験者ということで、いろいろ御助言いただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

それでは早速ですけれども、4番の協議事項に入らせていただきます。こちらにつきましては、町長が座長で小野課長補佐より説明します。

町長：はい。それでは協議内容に入ります。

浅川町の公共施設の現状について、浅川町公共施設等総合管理計画、施設の劣化状況、浅川町公共施設最適化計画協議資料を一括して説明をお願いいたします。

小野：では、資料により説明をしていきたいと思います。今日の委員会の内容ですが、記録を録音させていただきます。町民の方にもこういう議論をしていますということを公表したいと思いますので、申し訳ございませんが、御了承願います。

資料の説明に入る前に、申し訳ございません。資料の訂正がございます。こちらの劣化状況調査結果でございます。訂正箇所ですが 23 番の旧里白石小学校と 25 番の旧山白石小学校の閉校が平成 3 年度となってますが、申し訳ございません。平成 31 年度閉校です。訂正をお願いいたします

それでは着座のまま説明させていただきます。

はじめに浅川町公共施設等総合管理計画について説明をしていきたいと思います。

2 ページ目、この計画ですが浅川町第 5 次振興計画というのがございます。この計画が最上位計画になりますと、その計画をもとに平成 28 年 9 月に総合管理計画を策定しております。

こちらの総合管理計画につきましては、浅川町の公共施設の全体を把握するとともに、公共施設等を取り巻く状況、将来にわたる課題等を客観的に整理し、計画的に公共施設等の更新や管理を推進するため策定しております。

そして、令和 3 年 1 月 26 日に見直しを行っております。

この計画期間ですが、令和 7 年度、今までの 10 年間の計画として作られております。

では、ページを飛びまして 26 ページ目以降。こちらが浅川町にあります公共施設等の位置図となっております。こちらが文化系施設。次が社会教育施設等。

またページを飛びまして 40 ページ目。第 3 章の公共施設等の維持管理更新等に係る中長期の経費の見込み等でございます。今後どのように費用がかかっていくのかというのを当時作ってございます。かかる費用につきましては、一番下の※印にある総務省が公表しております計算ソフトがございます。そちらを使用して、どのように費用かかるか計算してございます。

そして 42 ページ目以降がその費用を平準化して、どのように更新していくかというのを記載してございます。

またページをおめくりして 46 ページ。第 4 章の公共施設の総合的かつ計画的な管理に関する基本方針ということで、今後の公共施設の在り方について記載されているページになっていきます。

後の資料でも説明いたしますが、建築年数がかなり経過したものがございます。建築後 30

年以上経過した建物が約7割を超えております。今後は維持管理、更新も考えていく必要がございます。ただ、一気に更新とか大規模改修工事を行いますと、かなりの費用がかかりますので、使える施設は使っていく、削減できるものは削減していくというような形で、施設の維持管理をすることになります。そのような考え方が次の47ページ目以降に書いてございます。3つの視点を重視して、施設管理、公共施設に関する基本的な考えを述べてあります。

①として、供給量の適正化。②で、既存施設の有効活用。③に、効率的な運営管理。これらの視点を重視して今後の公共施設の在り方を考えることになります。

そして48ページ目。先ほどの視点をさらに細かく基本方針を記載しております。供給に関する基本方針については、公共施設機能の複合化等による効率的な施設の配置。施設の総量の適正化。品質に関する基本方針として計画的な長寿命化の推進。次に予防保全の推進。③財務に関する基本方針として、維持管理費用の適正化、長期的費用の縮減と平準化、民間活力の導入。これらの基本方針に基づいて、今後の公共施設の在り方について検討することになります。

そして、51ページ目ですが、(5)の長寿命化の実施方針。公共施設については、定期的な大規模改修工事を実施することで、建築後80年間使用することに努めます。浅川町は築年数がかなり経過している建物がございますが、手を加えることによって80年以上、最大120年ぐらいは安全に使えることもありますので、定期的な大規模改修工事を実施し、費用の縮減に努めます。

次に52ページ目。(7)統合や廃止の推進方針といたしまして、公共施設については施設総量のコンパクト化を図り、維持・管理経費の縮減に努めます。そして、変化する町民ニーズに柔軟な対応を推進いたします。将来的に利用が見込めない施設については、施設の利用状況、運営状況等を踏まえつつ、人口構成の変動や財政状況等を勘案しながら必要性を検討し保有総量の縮減を図っていきます。

なお、施設の廃止により生じる跡地につきましては、建物を取り壊し更地にして返却し、借地の縮小も図っていきたいと思います。

次に53ページ目ですが、先ほども説明したとおり、町民との情報共有と共同体制の構築ということになります。

公共施設等のマネジメントは、施設の規模縮小や廃止等も検討することになるため、町民の理解が必要不可欠となりますので、よろしくお願ひいたします。

次ページ以降に、施設ごとに基本方針が記載しております。具体的にどのタイミングでこの公共施設を更新するということは書いてございません。あくまでも基本方針案ということで書いてありますので、この最適化委員会で今後の数十年間の更新順序等を決めていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします

では、こちらの協議資料に移らせていただきます。まず2ページ目。こちらの公共施設最適化の設置目的でございます。

こちらの総合管理計画にもありますが、所有する公共施設の老朽化が進んでおりまして、浅川町も今年で90周年としての年数もございます。施設についてもかなり老朽化が進んでおります。

今後、維持修繕に係る経費に増大していきます。将来的には建て替え費用が集中的に増大することに直面しております。

これから説明いたしますが、人口構成の変化や少子高齢化等により、今後の公共施設の利

用需要が変化していくことが見込まれます。

このため、将来の町の姿を見据えての計画的な公共施設等の更新・統廃合・長寿命化等の検討を進めていく必要がございます。

今回作成する浅川町公共施設最適化計画につきましては、総合管理計画で示された公共施設の今後の在り方、更新する順序、時期をより具体的に決めるものでございます。

このため、専門知識を有する者及び、町内にある様々な機関、団体からの意見を集約し、総意に基づく計画として作成していきますので、御協力よろしくお願ひいたします。

3 ページ目は、今後のスケジュールを大まかに記載しております。委員会は4回開催を予定しておりますが、状況によっては開催回数の追加がございますので、御協力よろしくお願ひいたします

4 ページ目は、総合管理計画に載っている浅川町の公共施設の一覧でございます。以下の52施設。浅川町役場につきましては、今年の9月11日をもって66年経過する木造の建物で、浅川町役場が一番古い建物となっております。

5 ページ目が浅川町の人口の状況です。浅川町の人口の状況は徐々に減少しております。平成12年からの記録ですが、平成12年7,740人いたのが、今年、令和7年度には5,729人となっております。人口構成につきましても少子高齢化が進み、生産年齢の15歳から64歳が著しく減少しております。平成12年と比べますと、1,803人減少となっております。なお、実際に浅川町にどのくらい住んでいるかを調査している国勢調査の結果では、昭和50年以降の人口になりますが、平成2年の7,727人が一番人口が多かった年となってございます。その後、7,727人をピークに毎年減少しているような状況でございます。

そして浅川町の出生者数ですが、こちらも平成12年度からの記録です。徐々に減少しております、令和6年については、年間16名の出生者数となっております。

次に6ページ目、こちらが将来人口の推計でございます。こちらの将来人口の推計でございますが、国立社会保障人口問題研究所が公表されている資料をもとに掲載しております。

令和7年度で5,525人となっておりまして、25年後の令和32年には3,376名の人口と推計しております。先ほども説明した年代別の人囗ですが、生産年齢の15歳から64歳の人囗が、今のところ一番多い人口でございますが、令和25年頃には高齢者人口より少なくなってしまいまして、浅川町の令和32年には半数以上の方が65歳以上の人口になると推計されております。

そして下は近隣町村の将来人口でございますが、浅川町以外の近隣の人口につきましても、将来推計を見ますと、半数近くの人口になると推計されております。

次に7ページ目ですが、こちらが令和元年度からの浅川町の財政状況でございます。こちら、単位は万で掲載しておりますが、令和元年度につきましては37億4,466万円の歳入と、歳出については33億2,385万円となっておりますが、令和2年度に歳入が上がったのは新型コロナウイルスの感染症対策ということで、歳入歳出とも20億跳ね上がっております。令和3年度は下がり毎年変動はございますが、歳入歳出の増減につきましては、コロナ対策とか、町の事業等、あと、令和5年度の増加につきましては、中学校建築を行っておりますので、歳入歳出が上がっております。

次に8ページ目、町債の推移でございます。こちらは浅川町単独で事業を実施する際、多額の資金を必要とするときに財源が不足した場合、県からの許可を受けて金融機関から調達する資金となり、将来にわたって返済していくことになります。簡単に言うと、町の借金に

なります。こちらの金額が増えていきますと、後年の財政負担が大きくなっていくことになります。

次に決算に係る健全化の判断比率ということで、浅川町がどのくらい資金繰りに危険性があるかということを掲載しております。こちらの表にある下から 2 番目の実質公債比率でございますが、浅川町の公債比率につきましては、令和元年度が 6.2%。令和 5 年度は 6.4%。大体 5%から 6%の間となっております。浅川町は将来の負担比率等も現在はないので、問題なく資金繰りができているということになっております。

実質公債比率が 18%以上になりますと県の許可、25%になると国の許可等が必要になりますが、浅川町の比率については、その 3 分の 1。大体 6.4%ということで低い割合となっております。

次に 9 ページ目。町の基金の状況ということで、こちらは簡単に言いますと浅川町の貯金の状況です。浅川町の貯金の状況ですが、特定の目的のために貯金しているものでございますので、ある程度使用するにあたってのルールがございますが、このような金額になっております。

上から 2 番目の役場庁舎等建設基金につきましては、令和 5 年度の状況ですが 7 億円ぐらいあることになっております。

次に、町税の状況ということで、こちらが 1 人当たりどのくらい負担をしているかということになっております。令和 5 年度の値になりますが、町民 1 人当たりの負担額が 11 万 4,507 円となっております。

ただこちらの町税の負担割合ですが、町民の暮らしを取り巻く環境整備、教育や福祉の充実などに支出していくものになります。浅川町の人口や会社等の法人事業者が少なくなると、事業収入も少なくなりまして、先ほど言った町の環境整備、教育や福祉の充実などに使用できることになります。

最後の検討の方向性でございます。その前に、こちらの劣化状況調査の結果。こちらの浅川町の施設の一覧がございます。

浅川町の 51 施設、令和 2 年度に建設技術者による目視による点検結果でございます。濃いピンクが築 50 年以上、築 30 年以上が薄いピンクということで、ぱっと見ピンク色に染められたところが多い施設ばかりです。2025 年を基準にしておりますが、浅川町役場は 1959 年、昭和 34 年に建築されました。その後、社会情勢や人口構成等の変化に伴いまして、増築、改築を行い本庁舎以外にも役場には 16 の建物がございます。その中でも劣化状況の評価ですね。こちら目視による評価ですが、外壁、内部仕上げ等、屋根も広範囲に劣化している状況でございます。当時やった劣化状況調査の写真もございますが、重要な基礎とか壁とかにもひびが入っている状態です。

東日本大震災、令和元年度の台風等、いくつもの災害も受けているので、劣化が進んでいる状況です。

次に浅川小学校ですが、最初にできたのが屋内運動場。体育館ですね。体育館が最初に建築されて、今年で 59 年を迎える建物です。平成 11 年に耐震補強工事を行っていますが、劣化状況を見ますと C 判定が多く健全度も 50 ということで、半分しかないような状況でございます。

次に校舎の状況ですが、北校舎、南校舎の 2 棟ありますが、一番古い北校舎につきましては 55 年が経過しております、評価は低く C 判定も多く健全度も低い状況です。次の図書館

ですが、こちらについては、浅川小学校出身の方だとわかるかと思いますが、昔、時計塔があったところです。時計塔は耐震的に問題があつて図書館に新築したので、一番浅川小学校で新しい建物となっております。

南校舎の耐震基準は新耐震基準になりますが、劣化は進んでおります。

次に、廃校となりました里白石と山白石の小学校の状況ですが、現在利用されていませんので、そのような状況で保管されています。

浅川中学校につきましては、昨年度新しく新築されたので、浅川町の公共施設で一番新しい建物になっております。中学校の体育館については、昭和 55 年建築の 45 年経過した建物になっておりまして、平成 19 年には耐震補強工事を行っております。

次に中央公民館、こちらも 50 年以上が経過した建物になっております。屋上については D 判定を受けておりまして、雨の降り方によっては雨漏りをしているような建物となっております。

次の町民体育館もですが、耐震的に問題がある建物となっております。建築年数も 49 年となっておりまして、見た目は比較的新しい建物見えますが、平成 9 年にリフォームをしており、外見だけはきれいな建物になっています。ただし内部を見ますと、かなり劣化が進んでいる状況になっております。

各施設の状況は以上のとおりになります。では、こちらの協議資料に戻りまして、今後の検討の方向性ということで、最初に説明した総合管理計画より考え方といたしまして、1 番、人口構成など地域の特性や町民ニーズを踏まえ、町民が必要とする行政サービスの維持・向上を図るといたしまして、供給量の適正化、既存施設の有効活用、効率的な管理運営を行つていきます。

次に 2 番の検討状況ですが、上記の視点を踏まえ、劣化状況の調査等の結果、施設の重要性等を踏まえまして、町として次の施設について方向性を提案させていただきます。

あくまでもこちらは今回の会議のために提案させていただく、たたき台という形で作成したので、これから行う協議の中で詰めていきたいと思います。

①浅川小学校につきましては、浅川中学校の敷地内に新築し、新校舎の規模につきましては、人口推計など社会環境を勘案し建築したいと思います。移転後の校舎につきましては、躯体部分の調査を行いまして、改造するか解体するかを検討した上で、役場と公民館の複合施設を浅川小学校に持つていきたいと考えております。

浅川小学校のプールについては、古くなっていますので、既存のプールは解体。体育館はかなり古い建物なので、調査の結果によっては解体を考えていきたいと思います。

②番の役場と中央公民館ですが、浅川小学校が中学校敷地内に移転したい、小学校跡地に機能移転を考えております。

次に③番の町民体育館。こちらは耐震的にも問題がある建物なので、将来的には解体し新築を考えております。

④町営プール。こちらにつきましても古い建物となっておりますので、将来的には解体を考えております。

⑤の浅川中学校。こちらについては、将来、小中学校が同じ敷地内になった場合、体育館は長寿命化の改修工事を実施したいと考えております。

プールでございますが、小中学校の児童、生徒を含め、町民が使用できるプールを考えております。このため、既存の浅川中学校プールの状況を調査し、改修を考えております。

なお、中学校のプールを一つだけ残して、浅川小学校のプールと町営プールについては廃止を考えてございます。

次に 3 番の今後の検討課題として、既存施設の長寿命化を図り、町の財政状況、人口推計などを勘案し公共施設の最適化を図りたいと思います。

そして最後にこちらの A3 の資料になりますが、今ほど提案した、たたき台を可視化したものでございます。可視化して将来的にはこういう施設にしていきますよ。というものです。

資料につきましては以上でございます。委員会での協議をよろしくお願ひいたします。

町長：担当よりお話をさせていただきました。それでは皆さんに、じゃあどうしますかと聞いても、何を伝えていいかわからないと思います。そういう中で、最後に言った、町が示したこのような状況でいきたい、というお話を一言させていただきたいと思います。

これから 5 年後、10 年後、小学校の各学年は一クラスに必ずなります。今までの小学校は大きな建物でありました。今後 5 年後 10 年後は、各学年一クラスになりますから今の中学校のところに小学校を持ってくれば、小学校、中学校と一緒に先輩、後輩で、勉強あるいは運動などできると思っております。

以前、福島県知事と話す機会があり、50 年後は今の人口の半分になる予想もあり、子どもが少なくなり 65 歳以上の人口が多くなり、高齢者も仕事をする時代なる。そういう話をしてきました。

私の予想ではおそらく 40 年後は 3,500 人になると思います。今後の 10 年後の施設はどうすればいいかと思い、皆さんに色々と意見を聞きたいと思います。

私は 10 年後、20 年後について、小中学校は一つにした方がいいんじゃないかと公約に出させていただきました。

子どもたちのために、小中学校と一緒にした方がいいのかなと思っております。

そして今の役場庁舎、これも私の話になりますが、元々は今の小学校の場所に昔の陣屋があった。ですからこの役場は昔に戻って、小学校跡地にすればいいのかなと思っております。

そうすることによって、駅前の活性化と小学校、中学校の両方が活性化されると思っております。駅前が活性化しなければ、私は浅川町の活性化はないと思っております。

今後、20 年後、30 年後の人口減少にともなって、コンパクトな町を作らなくちゃいけないと思っております。

今までのことを踏まえて、自分の考えを言っていただければと思います。意見は公表いたしますが、名前は公表しませんので、よろしくお願ひいたします。

それでは●●委員よりお願いします。

●●委員：まず、今回、最適化という言葉を使って、今回、大変重要な提案がされたところでありますけれども、人口減少、少子高齢化、環境の変化というところで、限られた財政の中で最大の効率化と効果を実現していかなければならぬ、大変重要な事業だなと思っております。

その中で、今後の検討というところで、町長の思いの話がありました。

これは単年度で実現できる事業ではないということは明らかであります。中長期、15 年、25 年という長い期間で、効果を図っていかなければならぬことになります。そして、財政の問題というのが一番大きいです。

何を統合して何を長寿命化してと、具体的な取り組みが大事です。委員を交えた委員会でやしていくことは、かなり時間を要するかと思います。

今回、初めての委員会でありますけれど、この委員会の役割、具体的な取り組みなどは大変重要なことで、有識者を踏まえ町職員以外の会議は必要と実感しています。これから取り組んでいく最適化計画ですが、この委員会のほかに、庁舎内の主管部署、さらには教育関係者と、それぞれの所管部署がありますが、そのような組織からも意見を聞くのか教えていただきたい。

いずれにしても申し上げましたとおり、非常に大事な機会です。6月に旧里白石小学校、旧山白石小学校の今後の方向性を議会で質問させていただきましたが、検討の状況をお聞かせいただきたいと思います。

町長；この委員会のほかに学校も関係していますので、教育関係につきましては教育長よりお答えいたします。旧里小・山小の件については事務局よりお答えします。

総務課長：今回、委員会を開催したのは、町全体の施設がほとんど老朽化しております。その議論を庁舎内のみで進めるのは、危険を伴うと思いますので、今回、このように各種団体の長の方、そして御二人の有識者の方をお招きしまして、今後の道筋を立て皆様と進んでいきたいと思っておりまして、内部と外部。皆様は外部の委員会。内部は役場の管理者ということで、内部でも煮詰めてはおります。現在進行形で煮詰めております。

皆様からは今回このような会で、いろいろ外部の方からも御意見いただきまして、あくまでも先ほど言ったとおり、これが決まりということはございません。

そのようなことで皆様からいろいろ意見を聞きまして、短期間では確かにできませんが、ご覧のとおり喫緊の課題だと思います。

あと、旧里小、山小の件ですが、これは当然、検討する一つに入っておりますが、優先順といつたら、まず、使っていない施設よりは、使っている施設を優先的にしたいと考えています。まずは、使用している施設を優先的に考える。次に、子どもの施設を優先したいと考えましたので、このような形で進めさせております。改めて申しますが、旧里小、山小も検討します。まずは優先順位が高い施設からと考えおります。

町長：教育長の考えをお願いします。

教育長：先ほどの検討の状況というところで、①から⑤まで学校施設、それから教育施設が上がっていますが、総務課長からもありましたように、子どもの施設を優先したいという考えがありまして、それは教育は重要であるということ。教育は人作り、人作りはまち作り、というふうにも言われております。非常に大事であり現在の浅川小学校もかなり老朽化しているため、中学校への移転ということを検討したいというのもあり、小学校が優先されるのかなと考えています。

これは、教育委員会だけで検討するということではもちろんありません。内部協議は定例の教育委員会で行われ、町の教育委員の意見も聞きながら、そして今後、小学校建設につきましては、町民の方がメンバーとなりまして、検討委員会を立ち上げ町民の皆さんのお意見をお聞きしながら、検討していきたいと考えております。以上です。

総務課長：補足させていただきます。町の体制ということでございますが、差し当たりは序議。課長が集まって情報を共有する場がございます。その場を使い意見を集約ということを考えております。

他自治体では推進本部を立ち上げるケースもあるようですが、結局メンバーも一緒になるものですから、そういうところで今進めていることでございます。以上です。

町長：私の考えもありますが、私はこういう会議では意見を申し上げられません。そうすると私の意見が強くなってしまいます。皆さんの意見もありますし、役場は災害の時の拠点ですから、それを優先するかもしれません。皆さんの意見を聞きたいというのは、そこになります。私がこれでやりますと簡単に進めてはいけないと思うので、委員会を立ち上げました。

そして、この16名のほかに後2、3名、若い人たちを入れたいと思っております。

そうすると、いろんな意見も聞かれますので、そういう方向でやっていきたいと思います。どうか私の意見が強くならないよう、よろしくお願ひいたします。

町長：次、●●委員、聞きたいことがあれば、お願ひします。

●●委員：こういう検討の場をもっていただいたのは、非常に良かったかなと思います。皆さんの意見を聞いて、こういうものを練り上げていくのが、大事なプロセスだと思いますので良かったと思います。

あとは、あまり堅苦しい言い方じゃなくて、もっとこう、ざっくばらんに話し合った方がいいかと思います。

我々の以外にも、いろいろ関係者がいるので、ざっくばらんに進行してもいいんじゃないでしょうか。意見交換の中で、いかにこの我が町の公共施設をどういうふうにして、まず一番早くどこの建物を新しくするかとか。あるいは公民館と役場を一緒にして、そういうコミュニティプラザを作ろうかとか、そういう話をさせていただきたいと思います。

町長：ありがとうございます。

町長：●●委員、意見ありますか

●●委員：この資料を作るため関係者の方は苦労されたのかなと思っております。

この状況を見ますと、私がこの場に居ていいのか疑問もありますが、概要を説明いただきこの場で意見というのは、なかなか出てこないものですから、いったんこの資料を勉強して、2回目の時に御意見させてもらえばと思います。

町長：ありがとうございます。●●委員、質問あればお願ひします。

●●委員：ありがとうございます。この資料を拝見いたしまして、また、担当者の説明を聞きまして、公共施設の更新の重要性。老朽化の状態を改めて確認したしたいでございます。以上です。

町長：はい、ありがとうございます。次の委員にお話を聞いてみたいと思います。

●●委員：楽しく生活できる環境の場と、あとは、最近、自然災害もあるので、災害に強い場所を。こういう意見を皆さんと進めていければと思います。

町長：ありがとうございました。自然災害はかなり増えている部分でございます。

災害の拠点となる場所はやっぱり重要で、建物の見直しは必要なのかと思っています。

●●委員、御意見をお願いします。

●●委員：はい。先ほど町長が構想を話してくれましたけど、私は町長の構想に賛成だと思います。できれば早く庁舎をやってほしい。この資料に役場庁舎等建設基金というのがあり5年度で終わっていますが、今後、公表されるのでしょうか。

総務課長：令和6年度決算のため発表していないので、直近の額だけです。

町長：●●委員はどうですか。

●●委員：私は、町長の構想に賛成です。

町長：はい、ありがとうございます。次に●●委員は。

●●委員：本当に町民との対話は必要だと思います。隣の●●委員のとおり、町長の意見に大賛成です。

町長：●●委員お願いします。

●●委員：庁舎と公民館と浅川小学校の場所に移転するとなれば、小学校の移転とかいろいろあると思います。まずはその条件、その範囲とか、さっき言った避難の関係とかいろいろ含めて敷地と場所。それを考えると時間がかかるので、もう早くに庁舎は建てる出しちゃった方がいいかと思います。

一番庁舎が古い状況です。新しい庁舎で次を考えればいいんじゃないですか。そういうふうに思っています。

町長：ありがとうございます。次、●●委員。

●●委員：私の意見ですが、人口減少、減少ってネガティブになっているところもあると思います。町には宿泊施設がなく本町の通りは寂しくなってきています。やっぱり駅の近くが町だという雰囲気にならないと、活性化にはならないと思います。

町長：ありがとうございます。やはり私も浅川町を活性化しなければと思っています。私はそのために、駅前の活性化は重要だと思っている。一番は町民が必ず利用する施設を優先的

に考えたらしいのかなと思いました。

教育長：教育関係で意見を出させていただきます。教育は大事ですけれども、将来的には人口減少、少子化ということで小学校は各学年一クラス。中学校も各学年一クラス。将来的にそういう規模になります。

山小 里小を統合し子どもたちが浅川小学校にきました。人数の多いところで学習、生活ができるということで大変なメリットがあったと思います。

先ほど申しましたように、一学年一クラスになるということは、人間関係が固定化されるということになります。ですから、小学校では自分の学年だけでなく、他の学年と交流して、人間関係を築いていく力をつけていくということを学校では「二学年交流」と言っています。小学校ではそういう対応が必要になっていきます。小学校を中学校の隣に持ってくる併設型の校舎にするということは、中学生とも交流しやすくなります。

小学生にとっては中学生に憧れの心を抱く。中学生は小学生に対して交流する中で思いやりの心で小学生にも接するようになります。そういう人間関係におけるメリットというのは大きいものがあると思います。

そういう生活をとおして、やがて社会人になったときに大きな集団の中に飛び込んでいきます。そのときにうまく人間関係を築けるかどうかというのは、やはり小学校・中学校時代の生活にかかっていると思います。

ということで、小学校建設を早く実現したというのが、私の考え方でございます。

町長：はい、ありがとうございます。小学校を建築するとなれば、今の学校の3分の1くらいの校舎でいいかと思っています。中学校と共有できる教室もあるので、安い建築費でいいけるのかなとは思っております。

小学校、中学校が併設されれば、より良い教育ができると思っております。私も教育長に賛成してもいいような気がしております。最終的には子どもたちの意見も聞いてみたいと思っております。

小学校の跡地に役場を造って、新しく建てるよりかは、廃校を利用した方が安くなるだろうという計算がありますが、建物自体がそのまま使えるのかどうかというのが、一つポイントになるのかと思っています。例えば改修したはいいけど、躯体の部分が深刻な状況で実は10年しか持たないということだと、新しく建てたほうが実はいいかも知れないとの思いもあります。そこはちょっと悩ましいところかなというところです。でも解決すれば、この計画は一気に進むことになります。

皆さんに今の意見を伺っている限りだと、皆さんに受け入れていただけるプランだったかなというふうに思います。

●●委員：浅川小学校の北校舎。私が小学校6年生の時に新築され55年。まあ、やっぱりこう年が経過したのかなと思います。昔は小学校に千人くらいおった。

現状では、だんだん各学年一クラスくらいになる。ということは、早く協力をしてもらつた方がいいんじゃないかなだと思います。

せっかくアドバイザーの先生方がいらっしゃるので、住宅関係とか色々、御指導を受けながら進めていかれたらいいんじゃないですか。

町長：●●委員にちょっとお話を聞きたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

●●委員：ご存知の方もいるかと思いますが、耐震性に問題がある旧耐震の建物は、耐震補強工事を実施しなければ、大きな地震が発生した場合、揺れ方によっては倒壊する可能性が高くなるわけです。地震が起きたときに使っている人がいれば危ないので、この耐震補強はかなり重要です。

これを見ると役場庁舎も旧耐震なので、自治体対策本部の拠点になるっていうのは大事なポイントです。これを何とかしなければと当然あると思います。

更新順番を考えるのは、旧耐震のものを検討すべきだと思います。

もう一つ考えていただきたいのは、耐震補強しても建物の寿命は伸びないです。いつかは建て替えが必要になります。

そう考えると建て替えちゃった方がいいのか、どうしたらいいかという選択が生まれます。ただ、持っている建物を全部やっていたら、とてもお金がなくなっちゃいますよね。

なので、全体的に町の建物の数を減らし、例えば複合化。いろんな使い方をして、全体量を抑えながら使えるものを扱って、使わなくなったものは廃止。

ここにこういう新しい建物、こっちは直して使う。みたいなやり方を考えるというのは、今、トレンドというか手順です。建て替えるものを選んで、今あったものを改修して、リニューアルとも言いますが、上手に改修して中もきれいにして、中も外も新築に近い形に。そうすると建物全体が減るし、リニューアルを行うことでコストを抑え、町の財政をみながら建設する選択肢になっていくと思います。

なので、役場庁舎は旧耐震の建物なので、優先順位が高いというのがございます。

学校関連では、例えば学校校舎にその関連機能を動かして、今の学校のところを併用して使うという選択肢もある。今あるものを上手に使いながら、建て替えるものを建て替えて、後はものを入れ替えるとか、順番に使うやり方というのは、今、本当にトレンドだと思います。今、考えて順番にやっていくというのは、非常にいいことだと思っています。

あと、お金もやっぱり大事です。さつき借金の話をされましたけど、借金を増やさないように日々考えていくことが重要だと思います。その順番とか、どの建物を具体的にどうするのかは、これから検討だと思います。

どの建物をどうしていくかというのは、一番使っている皆さんが考えた方がいいと思います。

町長：はい。ありがとうございます。それでは、●●委員お願いします。

●●委員：状況はわかりましたが、大事なことが 2 つあります。問題は今的人口が先ほど 3,500 人程度と言いましたが、これは言葉でわかつっていても、実際にそういう問題でどう環境が変わるか想像つかない。

そうするとやっぱり今の流れで物事を考えちゃうから、今ある施設は全部作りたくなってしまう。何にも使わない建物なんてないですから。

みな使うからあれが欲しいなど。なんとか集約しようと思ってもまとまらない。問題は 3,500 人になるかならないか、というところの話を持たないといけない。そこは考えなければならないです。昔、●●病院を建てるこになり検証した時ちょっと大変だった。

関係者の人から相談を受けたけれども、その時どうやったかといいうと、●●病院は、どのくらいの需要があり、それを間に合わせるには、このくらいの病院でいいんじゃないかと。あと問題なのは、公共施設を役所が建てる費用が高くなるので、民間がやっている事と同じ事をやろうと言って、設計・施工一括発注方式でやって、今から 10 年前ですが、当時の議会は、そのやり方で出来るわけないと言われましたが、なんとかなり完成するまでに 1 年半、建物の本体だけは 11 カ月ででき、費用も当初考えていた額より抑えることができた。

これは何を言いたいかといいうと、例えば今の学校建築の話ですが、白紙から始めると、例えば検討し計画をして議会にかけて、さらにそこから、今度は基本設計とかやっていると 10 年近くかかります。完成するまでですよ。

そうすると、今、みなこう夢を語っていたものが、実現するのは 10 年後くらいになる。そうすると、10 年先に状況が変わってしまう。だから、この町が 3,500 人くらいの町になった時に最低何が必要なのか。そのへんに物事を考え集約して最低限必要なもの。そういう考え方で、逆からの見方が必要だと思います。

ほかの方からは、どんなものも必要だという話も出てくる。今あるものが、みな必要で建てたわけだけど。じゃあ 3,500 人になった時に、この町がそれを維持していけるかどうか。3,500 人で止まるわけでもありません。町のやり方が間違えば、もうどんどん減っちゃう。例えば、3,000 人いた村が、今は 1,000 人減ったという村が、いくつもありますけど、みじめなものです。

だけどちゃんと生き残っているのは、それなりに芯がしっかりしている。昔は、陣屋があったとか、陣屋を中心に作った町は、根はしっかりしています。

これは役場職員の仕事かもしれませんけど、じゃあ 3500 人になった時にどういう町の姿があるかと、みなで考える必要がある。

それから結局、その検討が始まって、20 年後、その間に何があるかです。なおかつ怖いのは役所が造る建物です。なんでも造っちゃうと財政はついていけない。今の日本の財政は、毎年 100 兆円の予算を組むと、その内の 40 兆円は借金をすることになる。その借金は 60 年で返す借金です。結局、数十年かけて返す。その影響が町の財政に行くことになります。

やるものは確実にやると。そのへんを見極めて余計なものは造らない。

埼玉県の宮代町など、公民館の講堂が議場にもなります。議会が終わると、机、いすは別な部屋に引っ込めておくのですけど。

それから例えば、今回の航空写真を見せてもらいましたが、公共施設の用地が空いたらば、そこを何に使うか考えなければならない。

北海道は、2,000 人の村だってあります。ただし、用地の問題は心配していない。ここは何をやろうと、ものすごい用地があるわけです。空いたどこが何になったかといいうと、グランドゴルフ場です。高齢者が集まって、そこに保健師が行って。なるほどなど。さっきの活性化の話ですが使いようだと思います。老人の医療費が今は大きいわけですよね。医療費の半分以上使ってしまうので、その人たちが、外で走り回るくらいのものであれば、医療費は下げるることができます。

それに、コンパクトシティにして、まとめて住んでしまえば、都市の効率は良くなるから、余計なお金がかからない話がありますけれども、やるものは再建して必要なものには金をかける。ある程度見極めつけて。

ある程度は判断して、次もできる段階にする。それで資金繰りを考える。そういう感じで

スピード感を持ってやる。なつかつ 3,500 人でとどまって、後は、みんなでニコニコ生きていくべきだと。そのへんをじっくり詰め、決断したら早く回していく。

最後にまとめますと、人口は将来 3,500 人が確実に来ますよと。それ以下に減ることもある。そこは努力というか構想次第です。きちんとみんなで仲良く生産性ある産業を育てていければ、生き残れますから。

今の時点では、そういうとこを検討する必要があるではないかと思います。以上です。

町長：●●委員、ありがとうございました。浅川町は 30 年後には 3,500 人になると予想されています。

昔は、ものすごく人がいた時もあった。この浅川町は駅前をもう一度皆さんで活性化していきたいと思っております。

そして、施設を建てるときは、皆さんに意見を聞いてやらなければダメだと思っております。

そして子どもたちの教育や高齢者のためにも、スポーツをたくさんやってもらい、元気な高齢者であって欲しいと思っております。

次回も皆さんの意見を聞きたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。皆さんの貴重な意見ありがとうございました。

総務課長：協議事項につきましては以上とさせていただきまして、5 番のその他です。

せっかくの機会です。町全般、今日は特別な委員の方もおります。質問がございましたら、ここでお受けいたします。

●●委員：やっぱり、子どもたちがスポーツをやって元気じゃないといけない。

子どもたちが元気じゃなかつたら間違いなくだめです。そして、高齢者も元気じゃないといけない。これは常日頃から思っていることです。これは間違いないと思います。

●●委員：子どもたちが楽しく生活できるような環境を作りが一番重要だと思います。

やっぱり欲しいのは広いところで、子どもたちが広く遊べるようなところ。子たちが遊べるような公園が欲しい。

●●委員：今後この計画で進めていくことで、道路は結構重要なと思います。道路のすぐ脇に倒壊しそうな建物がある通りがある。間違いなく大きな地震が起きれば倒壊する可能性があると思います。対策をお願いします。

町長：大都市がいくらにぎわっても、こういう小さな町村が活性化しなければ、日本の活性化はないと思っています。私は昔からそう思っていました。だからこの小さな浅川町を大きく活性化させたいと思っています。本日は、いろんな意見を聞くことができ、ありがとうございます。

総務課長：今日は大きくくり言ったらば外部の方、それと内部は役場の幹部職員で進めたいと思っております。

今日の内容につきましては、公表したいと思っております。

委員の皆様は今日の内容を持ち帰りまして、各団体の幹部と今回の内容を踏まえ議論をして、次回はスケジュールにもありますが、9月議会の前後になります。改めて皆様に通知をお出ししますので、次回も皆様にお集まりいただきたいと思います。

先ほど申し上げたとおり喫緊の課題であります。こちらとしても当然スピーディーに進めたいと思っております。ただ、町職員だけでなく皆様もどうぞ各団体の方々に、このお話ををしていただきまして、委員会に反映させるような報告をいただければと思っております。

あとは12月のパブリックコメントとありますが、町のホームページなどで意見を集約できればと考えております。

この最適化計画委員会で作成した素案を町のホームページ、簡単な概略等をできれば広報などで広く周知し、町民の方々にもこういう協議をしています。ということを示して意見をいただきたいと思っております。以上です。

副町長：この機会では、なかなか答えられないということもあったと思います。第二回を待たずに意見があれば担当までお話しください。改めて委員会の時ではなく、その都度連絡ください。ぜひ、よろしくお願ひします。

総務課長：それでは、皆さんも慎重審議、大変ありがとうございました。

以上を持ちまして、今年度第1回の最適化委員会を閉じさせていただきます。皆様、ありがとうございました。